

公益財団法人 仁科記念財団
平成 28 年度 事業計画書

仁科記念財団の公益目的事業は、定款第 4 条に掲げられている通り、広い意味の原子物理学およびその応用に関する研究において (1) きわめて優秀な成果を収めた者に対する仁科記念賞など褒賞の授与 (2) 著名な研究者による仁科記念講演会など学術的交流・集会の開催 (3) 歴史的に貴重な資料・図書などの発掘・研究・保存・公開のための仁科記念室の運営 (4) 知識および思想を普及啓発するための出版物刊行などの活動 (5) 優秀な人材の海外への派遣および外国からの受け入れの助成です。

平成 28 年度は、以下の公益目的事業を行います。

(1) 仁科記念賞の授与

仁科記念賞は、財団が創立した 1955 年に第 1 回が授与されて以来半世紀を越す伝統をもち、原子物理学の分野では最も評価の高い賞としてよく知られています。平成 28 年度も例年通り、平成 28 年 6 月 1 日から 8 月 31 日の 3 ヶ月間、当財団ホームページ、日本物理学会誌、日本化学会誌等に仁科記念賞候補者募集要項を公表するとともに、広く学識者からの推薦を公募します。選考は仁科記念賞規程に則り選考委員会で行い、受賞者には、賞状、賞牌と 1 件当たり 500 千円の副賞を授けます。授賞件数は、3 件以内とし、選考結果は理事会の承認を得た後すみやかに新聞紙上等に公表します。本年度の授賞式は仁科芳雄博士の誕生日の 12 月 6 日 (火) に、これまでの受賞者、選考委員、運営諮問委員、助言委員、顧問、評議員、役員の参加する研究交流の場で執り行います。

(2) 仁科記念講演会の開催

仁科記念講演会は、社会に原子物理学の真髄を知っていただくため、1955 年以来毎年、一般の参加を得て開催されてきています。

本年度は、113 番新元素の命名権獲得に因んだテーマの講演会を検討しています。

(3) 仁科記念室の運営

仁科記念室には、わが国の科学技術の発展において仁科芳雄博士が果たした役割を再認識するための貴重な歴史的資料が多数保存されています。これらの資料の発掘・調査・研究にもとづき、平成 18 年度には「仁科芳雄博士往復書簡集」全 3 巻を出版し、日本科学史学会学会特別賞を受けるなど好評を博しました。また平成 24 年度には、その後仁科記念室で発掘された資料を纏めて「仁科芳雄博士往復書簡集」の補巻として出版いたしました。これは、仁科博士生誕 120 周年記念事業として実施したものです。

本年度もこれらの資料の保存状態の改善を図るとともに、「仁科芳雄博士アーカイブ」として当財団ホームページで一般に公開する準備をいたします。

(4) 原子物理学の普及啓発のための出版物刊行

本年度も、仁科記念講演会、シンポジウムの記録を含む NKZ シリーズの出版を行います。

(5) 原子物理学の研究における優秀な人材の海外派遣および招聘

仁科記念財団は、将来性豊かなアジアの若手研究者を国内の研究機関に受け入れ、その研究活動を支援してきましたが、昨今、このような海外の若手研究者の招聘助成事業は国内に多くみられるようになり、本財団の事業としての特色が薄れてきております。

そこで当財団では、これに代わるアジアの若手研究者の支援事業として、平成 24 年度に、仁科アジア賞 (Nishina Asia Award) を創設しました。

仁科アジア賞は、アジアに研究基盤をおいて極めて優れた成果を挙げた日本以外のアジアの若手研究者 (学位取得後 15 年以内) を毎年 1 名選考して、賞状と賞牌および賞金 400 千円を仁科記念賞授賞式の中で授与し、さらに授賞式の前後約 2 週間、わが国研究者との研究交流を助成するというものです。

第 4 回となる 2016 年仁科アジア賞は、平成 28 年 1 月 1 日から 3 月 31 日の 3 ヶ月間、当財団ホームページに候補者募集要項を公表するとともに、広く世界の学識者からの推薦を公募します。選考は Nishina Asia Award 規程に則り当該選考委員会で行い、選考結果は理事長の承認を得て本年 9 月初旬には受賞者に通知します。また、すみやかに当財団ホームページとアジア太平洋物理学会連合 (Association of Asia Pacific Physical Societies) の Bulletin 上に選考結果を公表します。